

1. 単元名(主題) 「専門的課題研究に向けて」

～後期専門的課題研究のオリエンテーションと、仮チーム編成・仮テーマ設定～

2. 本時の主題の概要および設定理由

本時は、高校1年後期から高校2年後期にかけての1年半にわたる長期的な「専門的課題研究」のスタートにあたる極めて重要な節目である。前期「プレ探究」における基礎的な学びや探究プロセスを踏まえ、本時からは生徒自身が主体となって専門的な探究を本格化させる。

後期からは、人文科学、社会科学、自然科学などの各分野で探究を進める「ゼミコース」と、特定の科学分野で専門的な実験や検証に重点を置く「ラボコース」に分かれて活動する。原則として1年半同じテーマで研究を深めていくため、最初のチーム編成とテーマ選びは、今後の研究の質と持続可能性を大きく左右する。

そこで本時では、事前に行った「専門的課題研究本調査」の回答結果(生徒自身の関心)に基づき、各自が研究キーワードを具体化し、自発的かつオープンな対話を通して仮チームを組織するとともに、仮テーマを合意形成することを目標とする。個人の進路や強い探究心に応えるため、複数人のチームだけでなく個人での研究も可能とし、さらには特定の教室にとどまらない自由な教室移動を認めることで、生徒同士が真に価値観を共有できる最適な研究コミュニティを構築できるよう支援を行う。

3. 本時の目標

- 1) 「専門的課題研究」の位置づけとプロセスの理解: 前期「プレ探究」から「専門的課題研究」への移行に伴う研究のロードマップや評価までの流れを理解し、主体的な進捗管理の重要性を認識することができる。
- 2) 自身の興味・関心と言葉の具体化: 事前の自己分析や調査内容に基づき、自身の興味のある分野に関連するキーワードを主体的にワークシートに抽出し、他者へ可視化・説明することができる。
- 3) 対話を通じたチーム編成とテーマ設定: 自由な教室移動や教員のメッセージ、チーム編成状況を参考にしながら、自身の関心に近い他者と協働して「仮チーム(または個人研究)」を組織し、共通の「仮テーマ」について対話を通じて合意することができる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第15回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『専門的課題研究本調査フォーム提出内容最終確認書』(当日持参)
- 提出用フォーム: 『【SS I】教室移動申請フォーム』
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『専門的課題研究チーム編成表』(各教室用シート)
『SS I 分野&担当教員一覧』
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認。 - 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 - 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第15回授業スライド(PDF版)』を表示する。	- ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 - 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
5分	(2) 「専門的課題研究」の位置づけに関する理解 前期「プレ探究」から後期「専門的課題研究」への移行に伴う年間計画や、ゼミコース・ラボコースの原則継続のルール、今後のリサーチクエスト(RQ)の反復サイクルのイメージについてスライドを見ながら確認する。	- スライド(p.3～6)を用いて、これからの約1年半にわたる探究の見通しを示す。特に「誰と組むか」ではなく「何を研究したいか」を重視してテーマを選ぶことの重要性を客観的な文体で強調する。 - 前期のように逐一指示を出すのではなく、生徒自身の主体的な進捗報告と管理が必要になることを指導し、当事者意識を持たせる。
8分	(3) 本時の活動内容と教室移動ルールの把握 - 本時の活動のゴール(仮チーム編成および仮テーマの決定)を理解する。 - 他教室への自由な移動におけるマナー(移動の際の各担当教員への声かけ)と、次回から配属教室の変更を希望する場合の「教室移動申請フォーム」の提出義務について確認する。	- スライド(p.7～15)を用いて、本時の流れを説明する。個人での研究(個人探究)も可能であることを示し、興味・関心に基づいて慎重に意思決定するよう指導する。 - 教員用の『SS I 担当教員一覧』や現在の『専門的課題研究チーム編成表』などを提示し、教室移動や編成における判断材料を提供する。 - 次回以降の配属に反映させるため、「次回から教室を変更したい生徒は、本日中に移動申請フォームを必ず送信すること(送信がない場合は次回も同教室となること)」を明確に説明する。
10分	(4) ワーク①: 個人ワーク(キーワードの列挙) - 手元に用意した『専門的課題研究本調査フォーム提出内容最終確認書』の回答内容を確認する。 - 自身の研究したい領域やテーマに関連する「キーワード」を、用意された用紙に周囲から見えやすいよう、大きく思いつく限り列挙する。	- 生徒が各自の興味・関心を可視化できるよう、太いペン等を用いてキーワードを大きく用紙に書き込むように促す。 - 教室を巡回し、何から書き始めればよいか難航している生徒には、事前に送信した本調査フォームの内容を見返させながら、関心の言語化をサポートする。
22分	(5) ワーク②: 仮テーマ決定・仮チーム編成(および教室移動) - 自身のキーワードが書かれた用紙を周囲に見えるように掲げながら、教室内外で主体的に声を掛け合い、興味の近い生徒を探して対話する。 - 興味・関心の共通点を見出し、1チーム2～4名(推奨)で合意できる「仮テーマ」を1文にまとめる。 - 必要に応じて他の教室に移動し、他学問系統の生徒や教員と相談する。 - 決定した仮チームと仮テーマについて、担当教員に報告し、所定のデータに入力する。	- 生徒の主体的なコミュニケーションを促すため、適切な距離で見守りつつ、孤立している生徒がいないか巡回して状況を把握する。チームサイズの上限(4名以下)を守るよう適宜指導する。 - 合意に至ったグループから順次、教員に報告させ、教員はその報告を受けて、『専門的課題研究チーム編成表』(スプレッドシート)に対応する組番号等を入力する。 - 教室内に入退室する移動生徒に配慮し、挨拶や各教室担当者への声かけなどのマナー指導を行う。
3分	(6) 本時の振り返りと次回予告(補足を含む)	スライド(p.16)を用いて、「サイエンス研究会」の仕組み

	● 本日の決定事項(または進捗)を確認し、本日中に「教室移動申請フォーム」の送信が必要な生徒は送信を完了させる。 ● ラボコースにおける「サイエンス研究会」への参加義務、およびゼミコースにおける任意参加の仕組みについて説明を聞く。 ● 次回の活動に向け、自身の探究内容をさらに深めておく重要性を理解する。	について補足説明を行う(放課後の研究活動環境を保障するための枠組みであることを解説する)。 ● 次回の教室割作成に直結するため、本日中の「教室移動申請フォーム」の締切を強調する。 ● 次回も引き続きチーム編成と研究テーマ決定の継続を行うことを予告し、本日中に決まらなかった生徒に向けては、次回までに自身の探究テーマのアイディアを少しでも具体化しておくよう宿題として指導し、授業を締めくくる。
--	--	---